

1. 研究室概要

大学名	芝浦工業大学		研究者	大倉 典子
			職位	教授
研究領域	人に優しいインターフェース		窓口担当	産学官民連携推進本部
研究キーワード	福祉工学、医薬品の使用の安全、人間工学、感性工学、わくわく感、かわいい			
窓口住所	豊洲校舎: 〒135-8548 東京都江東区豊洲 3-7-5			
窓口電話	03-5859-7180	E-mail	sangaku@ow.shibaura-it.ac.jp	
窓口 FAX	03-5859-7181	URL	http://www.shibaura-it.ac.jp/faculty/information_science_and_engineering.html	

2. 技術PR事項

『人とモノをつなぐ最適なカタチを探求、エビデンスベースで提案します』

「人に優しい情報の形とは？」をテーマに、お年寄りや障害者、子供を含めた一般の人々が容易に受け入れられる情報の形、表現を研究しています。人に優しい情報の形は、さまざまな形態をとります。医薬品の表示から工業製品、ゲームまで、いろいろな研究に取り組んでいます。

1. 研究項目と研究成果

◆バーチャルリアリティ（VR）を駆使した研究

高度情報化社会の今、若い世代には便利な時代ですが、高齢者や障害者・子供たちにとっては雲の上の技術になっています。そうした人達が情報化社会の恩恵を受けられるようにするための研究です。例えば、遠隔地の世界遺産の光景を大型画面に3D技術で再現し、家に居ながらにして世界中の世界遺産をVRで体験できるようにするような研究です。その一環として、研究室で開発した視覚障害者用のゲームが、すでに商品化され市販されています。

◆「わくわく」と「かわいい」という感性価値を研究

今の元気がない日本で、わくわくするような体験をしてほしいと考えている。人はわくわくすると心拍数が上がるが、そのためにはどうすればいいのか？ということ科学的に裏付けされたものに基づいて考えていきます。キッチン用品や日用品などの、デザインにおけるエレガントさを西欧と競うのではなく、日本の製品は独自の価値である『かわいい』を追求すべきだと思い、『かわいい商品とは何か』についても、系統的に分析する研究を始めています。

◆医薬品のユーザビリティ（使いやすさ）の研究

医薬品や医療機器は専門スタッフが使用するというので、ユーザビリティの観点からの配慮がなされていないケースが多いのです。例えば、医薬品のパッケージデザインが似ていたために、それを取り違えるなどの医療事故が起こっています。私たちの提案で既にいくつかの医薬品パッケージのデザインが変更されています。

実験結果 生理指標の解析(HRI心拍数平均)

変数	かわいくない	かわいい	差	等分散性の検定結果		T検定	
サンプル数	26	32		統計量:F	1.74	統計量:t	1.75
平均値	0.88	3.14	2.26	自由度1	25	自由度	56
不偏分散	31.11	17.92		自由度2	31	両側P値	0.08
標本標準偏差	5.58	4.23	1.34	P値	0.15	片側P値	0.04*

「かわいい」と評価した場合は、そうでない場合と比較して、リラックスという静的な精神状態とは逆の活動的な精神状態であることが示唆された。

2. 希望する連携内容(共同研究、試作品作りなど)と相談に対応できる技術分野

◆本研究に興味を持たれた製薬・印刷企業や製造業、サービス業の企業の方はご連絡ください。

3. 特記事項

- 2006年グッドデザイン賞受賞。点滴用複室バッグを女性看護師でも容易に扱えるように改良
- 2009年グッドデザイン賞受賞。日本包装技術協会 適正包装賞。高齢者に優しい医薬品プリスターカード